

くすり博物館だより

The Naito Museum News

No.67

2013/5/29

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1

Tel.0586-89-2101 / Fax.0586-89-2197

http://www.eisai.co.jp/museum



くすりと医療の照古鑒今



しょうこかんこん

内藤記念くすり博物館では内藤記念科学振興財団と共催で、平成25年度特別展示「くすりと医療の照古鑒今～漢方の源流と医薬の近代化産業遺産～」を4月26日(金)より開催しています。

近年再び脚光を浴びつつある漢方医学の起源をたどりつつ、『傷寒論』などを通して中国・韓国・日本の順に紹介します。医薬の近代化産業遺産の展示では、経産省より近代化産業遺産に認定された資料を中心に、現代の最新機器と比較展示を行っています。

「照古鑒今」とは、「いにしえを照らし、今を観る」という意味の曹洞宗開祖・道元禅師の言葉です。本展示を通じて、過去と現在のつながりを感じ取っていただければ幸いです。



特別展示会場の様子

● 医薬の近代化産業遺産

明治以降に近代化が進められた医薬品や医療器具などを展示します



皇国葡萄酒のポスター (右) と海軍で使用された合成マラリア剤 乙 (左)

ポスターは大正後期～昭和初期のもので、左側に規那(キナ)鉄葡萄酒が描かれている。富国強兵の折、キナは体力増進の薬用酒に用いられた。

せいきすい

明治時代の楽善堂の広告 (左) と精錡水 (右)

日本最初の液体目薬・精錡水の広告戦略は、宣伝を織り込んだ新聞記事をたびたび掲載したり、デザイン性の高いポスターを掲示するなど、現在の広告にも影響を与えるものであった。



サーモグラフィカメラ

サーモグラフィカメラは物体が発する赤外線を読み取り、画像を温度別に表示する。カメラの前に立つと、体温の高いところは白～赤色、低いところは緑～青色に表示される。SARSやインフルエンザ流行の折には、空港などで導入された。



ビデオスコープ

左のモニターを見ながら、左手でスコープの先端の方向を決め、右手で腸の模型の中に挿入する。実際に操作してみると、腸に当たらないようにビデオスコープを挿入するのは意外と難しいことがわかる。



非接触型体温計

物体から発する赤外線を検知して温度を測定する。温度を測りたいものに先端を向け、スイッチを押すだけで測定できる。皮膚に触れずに使用できるため、消毒の手間が省け、多人数の体温測定に向いている。





ちょうちゅうけい
張仲景

中国 しやうかんらん

『傷寒論』

張仲景は中国・後漢の医師で、急性熱性疾患の識別と治療についてまとめた『傷寒論』を著した。



ホジユン
許浚

許浚博物館所蔵

韓国

『東医宝鑑』

許浚は李氏朝鮮の宮廷官医で、実際の治療に役立つ医学百科全書『東医宝鑑』を著した。



まなせ げんさく
曲直瀬玄朔

日本

『医学天正記』

室町～安土桃山時代の医師・曲直瀬玄朔は、金・元代の中国医学を伝え、天皇や戦国大名の治療記録である『医学天正記』を著した。



図録
『漢方の源流をたどる』
を刊行しました

A4判36ページで、定価
1,000円です。



● 2013年度 特別展示情報

	開催期間	主な展示物	体験エリア	学芸員によるガイドツアー (参加無料・予約不要)
第1回	4月26日(金) ～7月28日(日)	・内視鏡、体温計、救急箱などの医療器具 ・中国の漢方関連資料	・内視鏡 (ビデオスコープ)	6月8日(土) 14:00-15:00
第2回	8月2日(金) ～10月27日(日)	・ペニシリン、キニーネなどの薬品 ・韓国の漢方関連資料	・サーモグラフィカメラ	8月3日(土) 14:00-15:00
第3回	11月1日(金) ～3月30日(日)	・聴診器などの医療器具、暦入り広告など ・日本の漢方関連資料	・サーモグラフィカメラ ・聴診器	11月16日(土) 15:40-16:20
				1月18日(土) 14:00-15:00
				公開講座(近代化産業遺産のくすりと医療について) 3月22日(土) 14:00-15:00

※イベントは都合で変更となる場合があります。事前にご確認ください。

よろしくお願いたします

内藤記念くすり博物館館長 森田 宏

内藤記念くすり博物館は、木曾川の清流に囲まれた小高い中州で、常緑の樹木の多く繁れる所にあります。エーザイの創業者 内藤豊次により1971年(昭和46年)に設立されました。

当時の設立趣意書には、内藤記念くすり博物館は「くすりに関する日本のみならず、世界の資料、および過去より現代にいたる資料を広く収集し、実物に合わせて展示し、今日の、薬学および薬業の姿は、現在までどのような経過をたどってきたか、将来はどうあるべきかを学会や業界、ひとしく一般の人々にも正しく理解してもらおう」とあります。

この精神を忘れず、資料を並べただけの博物館にならないよう、薬草・薬木を通じて「照古鑿今(しょうこかんこん;古から学べ)」、アルツハイマー治療薬、抗ウイルス薬、抗体医薬等を通して現代の薬剤の医療への寄与および経済学的な貢献も、一般の人々に解りやすく理解してもらいように取り組む所存でございます。来館者に親しみやすく、くすりを理解し、ファンになっていただけるような博物館を目指して職員一同、全力を尽くします。



トピックス

■ 来館者数 140万人目を達成しました

1971年の開館以来、140万人目の来館者となられたのは、2012年10月26日に愛知県西尾市から寿会の集まりで来館された高須君照様(写真右)です。「びっくりしました。今までこんなことはなかったの、うれしいですね」また、「薬についても興味があります」と喜んでいらっしゃいました。



当館職員より記念品を渡された高須君照様(右)

■ 交通アクセスが便利になりました

各務原市市街地と川島を結ぶ各務原大橋(下)が3月に開通しました。

国道21号線的那加大東町交差点より南へ道なりに進むと、各務原大橋へ出ます。橋を渡り、2つ目の交差点「川島小網町」を右折して約400m進むと、右側にくすり博物館があります。

東海北陸自動車道の岐阜各務原I.C.で降りた場合も、美濃加茂方面(東)へ約3km進み、那加大東町交差点からお越しいただくのが便利です。



各務原大橋(北側より撮影)

■ 講演会のお知らせ

11月には大江文雄先生を講師にお迎えして、下記の講演会を予定しています。

講演会
「薬として徳川幕府に献上された魚の耳石」
江戸時代に生薬とされたニベの耳石(じせき)についてお話いただきます。

日時 2013年11月16日(土) 14:00-15:30

申し込み不要/参加無料

■ お土産にキーホルダー
はいかがですか

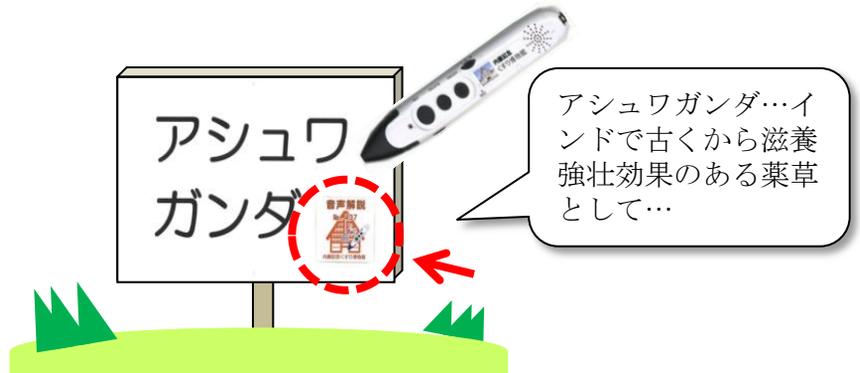
病魔よけの神獣とされる「白沢(はくたく)」のキーホルダーを1個 400円で販売しています。ご来館の記念にぜひお求めください。



● 薬用植物の音声解説をはじめました

薬用植物園では年間約450種類の植物を栽培しています。パーソナル音声機器(音声ペン)をデータカード(下図の点線で囲った部分)にタッチすると、音声で植物の解説をお聞きいただけます。

受付でお申し込みください。1回 300 円です。



■ カモミール摘み取り体験とサクランボ採り体験を行いました

薬草園の育成畑で栽培していたカモミールの花の摘み取りでは、摘みたての花のカモミールティーを試飲いただきました。甘味料となるステビアの葉を加えたティーも「おいしい」と好評でした。



カモミールを摘み取る参加者のみなさん



サクランボを採る園児たち

地元・川島保育園のみなさんが一生懸命採っているところです。家族連れの方も採取されました。

■ くすり博物館の利用方法が変更となります

● 映画「水、森、人の物語」の上映

映画(上映時間18分)の上映を①10:00からと②13:00からの2回の定時上映とします。

● 図書館

図書館は予約制です。図書館の利用をご希望の方は、1週間前までにご予約ください。図書館の利用時間は開館日の9:00-12:00、13:00-16:00です。

● 博物館・薬草園のご見学

これまでくすり博物館では、お客様のご要望に応じて博物館・薬草園をご案内いたしておりましたが、原則自由見学とさせていただきます。なにとぞご理解くださいますようよろしくお願い申し上げます。



■ 地域新聞『尾北ホームニュース』にコラムを連載します

『尾北ホームニュース』は、愛知県の北尾張地区(江南市・犬山市・扶桑町・大口町)で毎週土曜に発行されている地域新聞です。(58,400部発行)

当館では1年間、毎月第2土曜日発行の同紙にコラム『ちょこっと歳時記』を連載します。職員が交代で執筆し、ウェブでも紹介していきますので、お楽しみに。